14

オーエムカラーコピー 株式会社

立体物を手軽に
カラーコピーできるシステムを開発

事業内容 印刷に関するお悩み解決

主力事業は企業向けのカラーコピーサービスや、立体物のコピーサービスの代行業務。ほかにも、画像データのスキャンやプリント、データ作成業務から印刷まで行う。

印刷の代行業務とは、顧客が持ち込んだ原稿をスキャナーで撮影して、ソフト上で画像を加工・編集。データや紙ベースにして顧客に届けるものだ。飲食店や土産物店での商品写真などへの需要が大きいという。

従来、立体物のコピーをするにはスタジオや照明、カメラマンを調達する必要があった。しかし今回の事業では、カメラではなく、スキャナーで撮影を可能とした。スタジオや照明の調達の必要がなくなり、大幅なコスト削減ができる。

同社は一般向けにも業務を展開。コンビニで大量に資料をコピーしていると、周りの目や順番待ちの目が気になるのは誰しもが経験したことがあるだろう。同社では、そういった人に代行してコピーサービスも行っている。一般消費者から企業まで、印刷業務に関する悩みに幅広く対応する。

補助事業 立体物の陰影をリアルに表現

これまで立体物のコピーは、デジタルカメラやスキャナーでいったん取り込んで印刷していた。しかしレンズ越しでの撮影なので色が合わないことや、影で一部が暗くなってしまうことなどの課題があった。

今回の事業では、同社が開発した非接触型カラーコピーシステムと、立体物スキャナーを活用し、短期間で高品質に立体物をコピーできる、立体物カラーコピーシステムを開発した。

立体物スキャナーとは、デジタルカメラで撮影するのではなく、ＣＴスキャンをするように商品を撮影するもの。撮影物に接触することがないので、扱いが難しい文化財やアート作品、食品のサンプル撮影に向いているという。スキャナーに光源位置可変機能を搭載し、立体物カラーコピーシステムを使ったスキャナーでは、高さ10ｃｍ、重量20ｋｇまでの立体物を印刷できる。

オーエムカラーコピー 株式会社

代表取締役社長　小野 正治

〒540-0012 大阪市中央区谷町1-5-11 キャッスルリバー3F

TEL. 06-6945-1155

FAX. 06-6945-1158

資本金／15,000千円

従業員／10名

短納期　オンリーワン技術　量産OK

時代のニーズにフレキシブルに対応

代表取締役社長 **小野 正治**

「立体物を手軽にカラーコピーしたい!」このようなニーズに応えることができるようにと、サービスを始めて36年が経ちました。時代はアナログからデジタルに置き換わりましたが、常に高画質の画像を短納期で製作することを目指しています。

http://www.omcolor.co.jp/

立体物カラーコピー機

食品サンプルの画像

絵画の画像

具体的成果 商品サンプルから部屋の壁紙の印刷まで、幅広く対応

これまでは、立体物をスキャナーで読み取ったあとは画像編集ソフト「フォトショップ」で色調補正していたが、立体物カラーコピーシステムでは専用のカラーコピーソフト「アウピア」を利用。画面上での色度調整が容易にでき、また従来よりも現物に近い色合いでの印刷を可能にした。さらに、対象物をスキャンのライトがサイドから照らし影を均一に表現しながら撮影。現物に近い陰影感を表現する。

対象物に接触せずに厚みのある素材を印刷できるので、設計図などの大きな原稿でも、分割せずそのまま読み込むことができる。油絵などの絵画の印刷では、筆のタッチまで鮮明に表現するので、顧客からは「つい触りたくなってしまう」という声も多く聞かれるという。

食品サンプルや絵画の印刷の依頼は想定通りだったが、「建築現場という意外な分野からの需要がかなりある」と小野正治社長は明かす。ホテルの全客室の壁紙の印刷依頼があったという。石材や木目、タイルなどの壁紙は現在も多く出ているが、それらは正面から見ると立体感がない。しかし、同社のスキャナーで撮影すると、木目調の微妙な陰影や、石材の硬い様子も表現することから、建築現場からの人気を集めているという。「今後も長きにわたり需要が見込める」という。

今後の戦略 撮影料金の削減で企業の大きな味方に

今後は、商品のサンプル写真を必要とするメーカー各社に向け、大幅なコスト削減をアピールするという。

メーカーが商品カタログやパンフレットを作成する際、多額のお金をかけてカメラマンに撮影を依頼する。さらにカメラマン撮影による写真の著作権は撮影者であるカメラマンのもの。そのため撮影後も、写真の使用料など悩みの種は尽きないそうだ。同社スキャナーで撮影すると、撮影料やスタジオ料がかからないので大幅なコスト削減が望めるのはもちろんのこと、著作権はスキャナーに帰属するため、使用料もかからない。また、カラーコピーなので特別な撮影技術は必要なく、その場でサンプル写真を作成できるので、短納期化にもつながる。

「特にバレンタインデーやホワイトデーの時期に商機があるだろう」と小野社長は意気込む。バレンタインデーに商品写真はなくてはならない存在。さらにチョコレートのように箱に入っている写真は陰影の付け方が難しく、カメラマンに依頼すると値段も高騰するが、同社に依頼すると大きなコスト削減がのぞめる。

バレンタインデーだけではなく、贈答品全般においてコストに関する問題を抱えているので、１年を通して大きな需要が期待できる。立体物カラーコピーシステムは、商品撮影費に頭を抱えるメーカーを始めとした幅広い業種の大きな味方になりそうだ。

取材を終えて

思わず触ってしまうほどの印刷技術

取材中、あまりの立体感に、本当に印刷物なのかと何度も手を触れた。「目下の課題は、そのすごさがわかりにくいから認知されにくいこと」と小野社長は話す。今後はウェブサイトで告知して認知度を高める考えだ。